

【研究課題】：

褐色細胞腫におけるタイプとランジオロール投与方法、投与量の関係

研究の意義：管理が困難な褐色細胞腫の手術時に対応するために有用な情報が得られる。

目的：褐色細胞腫の術中管理において、アドレナリンのホルモン活性が高いと考えられる24時間蓄尿での尿中メタネフリンの測定値が高い症例で頻脈が起こりやすく、塩酸ランジオロールの投与量が多くなると考え、尿中メタネフリン、ノルメタネフリンとランジオロールの投与量に関連があるかを検討する

方法

2007年12月から2012年6月までの間に、筑波大学附属病院の副腎褐色細胞腫の予定手術症例に対して麻酔記録、診療録を後ろ向きに検討する。小児の症例は除外する。

術前の尿中メタネフリン、尿中ノルメタネフリンの測定値で褐色細胞腫の分類を行い、尿中メタネフリン優位のものをアドレナリン優位(A)型、尿中ノルメタネフリン優位のものをノルアドレナリン優位(NA)型とする。ランジオロールの総投与量は電子麻酔記録を基に算出し、A群、NA群で差があるかを検討する。また、A群、NA群の循環動態の変動は麻酔記録を基にグラフ化し、変動の度合いをブラインドされた麻酔科医10人によって10段階のRating scaleを用いて評価する(安定~極めて不安定)。A群とNA群で循環動態の安定度、ランジオロールの使用量などに差があるかを検討する。

研究機関名・研究者名：筑波大学附属病院麻酔科 高橋伸二

個人情報に関する情報：個人の特定はできない研究です

問い合わせ・苦情等の連絡先：高橋伸二（電話029-853-3210）